平成26年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

東広島市立中央中学校の取組

東広島市立中央中学校

1

1　本校の概要

○平成26年度学級数・生徒数

学年	1年	2年	3年	知的	自閉症情緒	難聴	合計
学級数	6	6	6	1	1	1	21
生徒数	219	208	202	3	6	1	639

○平成25年度から特別支援教育の考え方を取り入れ，巡回相談の結果を，個別の指導計画及び授業での具体的な指導に反映。

○学校が支援を要すると判断した通常の学級の生徒数13名（個別の指導計画及び教育支援計画を作成済）

2

校内体制

○特別支援教育コーディネーター2名指名
○必要に応じてケース会議実施
　→全校で共有すべき点を職朝で周知
○校内支援委員会を週1回開催
　→支援の方向性を確認　ファイルで回覧
　→個別の指導計画を生かした学習指導案の作成
○巡回相談3回実施（4,10,3月実施予定）
　→校内環境や授業等についての
　　アドバイスを生かした支援
　→個別の指導計画の評価

3

学校全体の取組

①ユニバーサルデザインに基づく授業づくり
　○「東広島スタンダード」・学習規律の徹底
　○学習環境の整備（刺激を最小限に）
　○黒板・チョークの使い方の工夫
　　構造的な板書　授業の流れのパターン化
②生徒指導の三機能を取り入れた「和心教育」の充実
　◎立腰・黙想
　○全校合唱
　○黙動流汗清掃
　○部活集合

4

2　授業実践報告（概要）

【授業概要】
単元　社会科　第2学年　「日本の人口と人口問題」
目標　人口ピラミッドの作成や資料の読み取りを通して，日本の人口の特色について理解する。
【学級全体の状況】
①　情報の読み取りや解釈が十分とはいえない。
②　意見をまとめたり，考えたことを説明したりすることが苦手である。
【個の状況】
生徒A～集中して話を聞けず指示の聞きもらしが多い。
生徒B～集中できる時間が短く,勝手な離席や私語がある。寝ていることもある。

5

2　授業実践報告（学級全体への支援）

①導入の工夫

・具体資料の提示
・既習内容の復習
・ICTの活用　　など

↓

学習課題への興味づけを図るとともに関心を高める

6

2　授業実践報告（学級全体への支援）

②学習形態の工夫

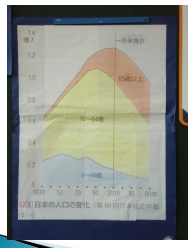
○内容の説明・確認（教える）～全体
- ・教科書の活用（各自事前に読んで予習→全員で読む）
- ・板書を写す時間の確保　ノートの使い方を4月に指示

○思考・作業～個人→グループ→全体（個人）
- ・個人でできるだけ考えた上でグループで話し合い，全体へ発表する。まとめや作業が最終的に一人でもできるように机間指導の中で個やグループに働きかける。

○振り返り～個人（グループ・全体）
- ・ノートやワークシートにまとめを自分の言葉で書く。

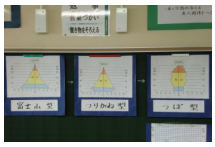
2　授業実践報告（学級全体への支援）

③視覚化



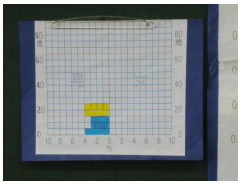
1.授業のポイントとなる資料は拡大して全体で常に確認できるように黒板に掲示する。

2.①の関連資料を掲示する場合同じ内容（例：年齢別）は同色にする。



2　授業実践報告（個への支援）

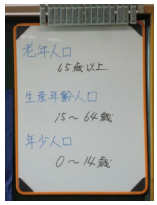
①ワークシートの工夫（例）



一部仕上げた人口ピラミッド（説明用として掲示したものと同じ）をワークシートに掲載。人口ピラミッドを生徒が一人でも作成できるようにする。作業時間確保にも役立つ。

2　授業実践報告（個への支援）

②ヒントボードの活用（例）



関連する既習内容やキーワードをボードに書いて示すことで全体の流れをつかんだり，社会科の基本用語を使ったまとめに役立てたりする。

3　まとめ

成果

①生徒指導など校内体制の確立
　→連携の充実（教職員 関係機関など）
　→学習に集中できる環境
②授業改善→生徒の論理的思考力の向上
③学校生活意欲の向上

課題

①障害特性・発達段階の理解（研修）
②障害特性に応じた指導の工夫，効果的な支援の共有（個別の指導計画の活用）
③学級集団づくり
　→生徒指導の三機能を生かした授業
　→生徒同士の関わり　自主的な活動・行動